



校長室だより

令和8年度

5月1日

NO. 4

秦梨っ子みんな、助け合える兄弟姉妹のように！

『多様性の尊重』というのは、簡単に言えば、あなたの情緒や倫理に抵触したからと言って、そのことだけで、その言説や行動を排除しない寛容さのことである」

『多様性バカ』（扶桑社新書） 池田清彦著



全校で楽しくみんなと仲良くなれた「1年生をむかえる会」と遠足。

三週間ほどたちましたが、一年生の元気な声が、校舎に響きます。朝は、六年生が一年生のお世話をしてくれています。カバンを片付けたり読み聞かせを行ったり、秦梨小のお兄さんお姉さんとして自覚をもつて、一年生に接します。

四月二十七日の「一年生をむかえる会」でも、六年生が中心となり、一年生を歓迎する会が行われました。各学年が、「ここにこの歌」を歌ったり、クイズをしたりゲームをしたりして出し物を披露しました。クイズでは先生や上級生の名前を一年生が答える場面があり、すっかりとみんなの名前も覚え、秦梨っ子の仲間になっている様子が伺えました。

三十日には全校縦割り班で、のんほいパーク（豊橋総合動植物公園）に遠足で行きました。子供たちにとって秦梨の春のお楽しみの遠足では、全校で触れ合う姿が見られます。行き帰りのバスの中や、動物園と自然史博物館を見学する中では、上学年が一年生の子に寄り添い、笑顔で手を引いたり声をかけたりする姿が、多く見られました。一年生にとっても、安心して話ができる関係が、全校で築かれることはとても大切なことです。学級の友達だけでなく、年齢も違う全校の児童が家族のように、お互いを尊重し合えるようになることが、秦梨の良さとなり、さらに大切にし続けたいことでもあります。

教育の指針となる文科省の「学習指導要領」も大きな改定に向け動き出します。これまで通り、主体的に個々が学習や活動に取り組むことはもちろん、他との対話も大事です。さらに、今の多様性の時代、より多くの多様性を包摂していくためにも、様々な人を知り、触れ合うことはより大切であると考えます。

- ・ 来年の複式学級も見据え、今年度より1, 2年、5, 6年が合同で授業を行うことを増やしていきます。2人で2学年を見ることにより、一人一人をよりきめ細かく支援できればと考えます。
- ・ 子供の様子を伝えられるよう学校HPにて、秦梨日記を増やしてまいります。ぜひご覧ください。
- ・ GWで長い休みに入ります。健康・安心・安全に過ごせるよう、ご支援お願いいたします。